

# 2024年3月期 第2四半期決算説明会

---

2023年10月30日  
株式会社オリエンタルランド



## I. 決算概要

## II. 通期業績予想の上方修正

## III. 2024中期経営計画の更新



# I. 決算概要

---

## I. 決算概要

まずは2024年3月期第2四半期の決算概要についてご説明します。



## 1. 上半期実績(前年同期比較)

(億円)

連結損益計算書	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	増減	増減率
売上高	2,040	2,843	802	39.3%
テーマパーク事業	1,646	2,339	693	42.1%
ホテル事業	338	428	89	26.5%
その他の事業	56	75	19	35.4%
営業利益	379	770	390	102.9%
テーマパーク事業	313	629	316	100.8%
ホテル事業	69	133	64	92.8%
その他の事業	△ 4	5	9	-
経常利益	385	777	391	101.5%
税金等調整前四半期純利益	385	777	391	101.5%
親会社株主に帰属する四半期純利益	264	545	280	106.2%

主に入園者数の増加により、増収増益

4

### 1. 上半期実績 (前年同期比較)

前年同期と比較した上半期実績は、ご覧の通りです。

主にテーマパーク事業の入園者数の増から増収増益となりました。

セグメント別の実績と増減要因をご説明します。



# 1. 上半期実績(前年同期比較)－ 主な増減要因

## テーマパーク事業①

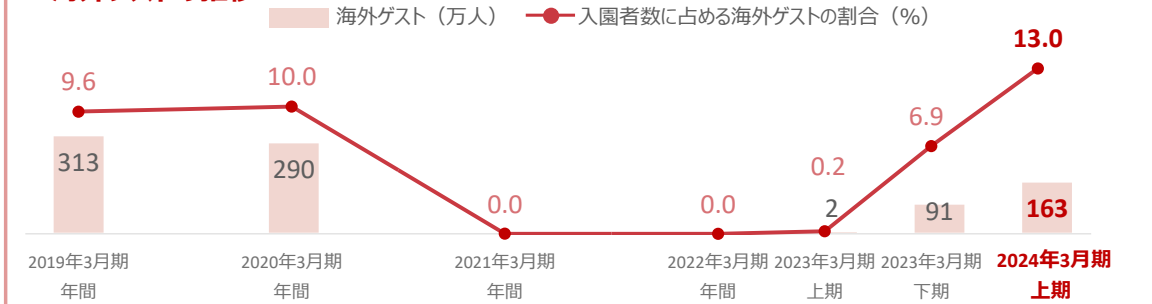
	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	増減	増減率
売上高(億円)	1,646*	2,339	693	42.1%
入園者数(万人)	894	1,250	356	39.8%

\*2022年5月末を以って払い戻しを終了した有効期限切れチケットの収入34億円を売上高に計上しています。

### 入園者数の増

- ・東京ディズニーリゾート®40周年イベントによる増
- ・海外ゲスト数の増
- ・期間限定券種による増
- ・制限緩和による増

### 海外ゲストの推移



東京ディズニーリゾート40周年イベントや海外ゲストの回復などにより、  
入園者数が増加


## 1. 上半期実績(前年同期比較)－ 主な増減要因

テーマパーク事業の売上高は、693億円増の2,339億円となりました。

入園者数につきまして、  
東京ディズニーリゾート40周年イベントや  
海外ゲストの増加などにより、増加しました。



# 1. 上半期実績(前年同期比較)－ 主な増減要因

テーマパーク事業① 	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	増減	増減率
売上高(億円)	1,646*	2,339	693	42.1%
ゲスト1人当たり売上高(円)	15,683	16,566	883	5.6%
アトラクション・ショー収入	7,590	7,962	372	4.9%
商品販売収入	4,896	5,331	435	8.9%
飲食販売収入	3,197	3,272	75	2.3%

\* 2022年5月末を以って払い戻しを終了した有効期限切れチケットの収入34億円を売上高に計上しています。ゲスト1人当たり売上高には含まれません。

## ゲスト1人当たり売上高の増

- ・アトラクション・ショー収入の増  
－ディズニー・プレミアアクセスの増
- ・商品販売収入の増  
－東京ディズニーリゾート40周年関連商品販売の増
- ・飲食販売収入の増  
－東京ディズニーリゾート40周年関連メニュー・フードスーベニア販売の増  
－入園者数増加によるテーブルサービス店舗の利用構成比の減

## ディズニー・プレミアアクセスの対象施設

前年同期から対象が**8つ増え**、  
**合計11**のコンテンツ\*1に導入

2024年3月期第2四半期に追加したコンテンツ：  
スプーキー“Boo!”パレード\*2 (¥2,500)

\*1 2023年10月30日時点で導入している/今期中の導入を予定しているディズニー・プレミアアクセスの対象はAppendix P30をご参照ください。

\*2 スプーキー“Boo!”パレードは2023年9月15日(金)～10月31日(火)の間、ディズニー・プレミアアクセス対象です。

## 東京ディズニーリゾート40周年関連商品/フード(一例)



モーメントゴ・ラウンド  
(価格は組み合わせによって異なります)  
©Disney



ポップコーン、バケット付 (¥3,400)  
©Disney

各収入の増加により、ゲスト1人当たり売上高が増加

# 1. 上半期実績(前年同期比較)－ 主な増減要因

ゲスト1人当たり売上高は、各収入が増加しました。

アトラクション・ショー収入は、ディズニー・プレミアアクセスの増により増加しました。9月と10月に実施したディズニー・ハロウィーンのパレードをディズニー・プレミアアクセスの対象に追加したことで、前年同期から対象が8つ増え、現在は合計11のコンテンツが対象になっています。

商品販売収入と飲食販売収入は、ご覧のような、東京ディズニーリゾート40周年関連の魅力的な商品やフードの販売などにより、増加しました。



## 1. 上半期実績(前年同期比較) – 主な増減要因

(億円)

テーマパーク事業② 	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	増減	増減率
売上高	1,646	2,339	693	42.1%
営業利益	313	629	316	100.8%

### 営業利益の増

(億円)

売上高の増		諸経費の増	△ 73
商品・飲食原価率の減	3	メンテナンス費の増	△ 14
人件費の増	△ 64	販売促進費の増	△ 12
準社員人件費の増	△ 44	研究開発費の増	△ 10
正社員人件費の増	△ 9	システム関連費用の増	△ 7
その他	△ 9	エンターテイメント関連費用の増	△ 5
		その他	△ 23
		減価償却費の増	△ 6
		新規資産取得による増など	

※コストにおける△表示は、営業利益に対する減少影響を示しています。

コストは増加したものの、売上高の増加により、増益

7

## 1. 上半期実績(前年同期比較) – 主な増減要因

テーマパーク事業の営業利益は、売上高の増などにより、316億円増加し、629億円となりました。

商品・飲食原価率は、商品・飲食ともに為替と原材料の高騰の影響による増があったものの、飲食原価率が、売上高の増加により製造人件費率が低下したことから減したため、減少しました。

人件費は、賃金改定に加え、入園者数増加に伴う労働時間の増により準社員人件費が増加したことなどから、増加しました。

諸経費は、新型コロナウイルス感染症の流行を受け、コストコントロールのために先送りしていた工事の実施によるメンテナンス費の増や東京ディズニーリゾート40周年イベントの集客活動を含む販売促進費の増などにより、増加しました。

減価償却費は、「ビリーヴ! ～シー・オブ・ドリームス～」や「ディズニー・ハーモニー・イン・カラー」などの新規資産の取得などにより、増加しました。

# 1. 上半期実績(前年同期比較) - 主な増減要因

HOTEL		(億円)			
ホテル事業		2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	増減	増減率
売上高		338	428	89	26.5%
ディズニーホテル		312	388	75	24.1%
	客室稼働率 (%、pt)	80.8	98.8	18.0	
	平均客室単価 (円)	50,833	53,346	2,513	4.9%
その他ホテル		25	39	14	56.0%
営業利益		69	133	64	92.8%

## 売上高の増

- ・テーマパーク入園者数の増加に伴う宿泊収入の増

## 営業利益の増

- ・売上高の増
- ・人件費の増 (△ 9億円)
  - －在籍者数の増、賃金改定による増など
- ・諸経費の増



ディズニーアンバサダー®ホテルの  
マーベルスペシャルルーム  
(2/2~8/31、9/13~2024/1/8)  
※画像は2/2~8/31の客室です。



東京ディズニーセレブレーションホテル®の  
ウィッシュ：東京ディズニーリゾート40周年®ドリーム  
ゴラウンドルーム (4/10~2024/3/31)  
©Disney

※コストにおける△表示は、営業利益に対する減少影響を示しています。

テーマパーク入園者数の増加に伴う宿泊収入の増などにより、増収増益

# 1. 上半期実績(前年同期比較) - 主な増減要因

ホテル事業は、  
テーマパーク入園者数の増加に伴う宿泊収入の増加により、  
売上高は89億円増の428億円となりました。  
上半期のディズニーホテルにおける  
客室稼働率は18.0ポイント増の98.8%、  
平均客室単価は2,513円増の53,346円でした。

営業利益は、在籍者数の増や賃金改定などによる人件費の増加などがあつたものの、  
売上高が増加したことなどから、64億円増の133億円となりました。

2024中期経営計画のホテル事業戦略において、  
ディズニーコンテンツを活用した宿泊体験などの提供による魅力向上を掲げています。  
ご覧の通り、当期はディズニーアンバサダーホテルで、  
マーベル・スタジオ作品をテーマとしたスペシャルルームをご用意し、  
宿泊ゲストからご好評をいただきました。





## 1. 上半期実績(前年同期比較) - 主な増減要因

(億円)

その他の事業 	2023年3月期	2024年3月期	増減	増減率
	実績	実績		
売上高	56	75	19	35.4%
営業利益	△ 4	5	9	-

### 売上高の増

- ・ 乗降客数の増によるモルルール事業の増
- ・ 不動産賃料収入の増によるイクスピアリ事業の増

### 営業利益の増

- ・ 売上高の増

モルルール事業とイクスピアリ事業の売上高の増加により、黒字に転換

9

## 1. 上半期実績(前年同期比較) - 主な増減要因

その他の事業は、  
テーマパーク入園者数の増加に伴うモルルール事業の増収や、  
不動産賃料収入の増加に伴うイクスピアリ事業の増収により、  
売上高は19億円増の75億円でした。

営業利益は、売上高の増加により黒字に転換し、5億円でした。



## 2. 上半期実績(期初予想比較)

(億円)

連結損益計算書	2024年3月期 期初予想	2024年3月期 実績	増減	増減率
売上高	2,571	2,843	271	10.6%
テーマパーク事業	2,113	2,339	225	10.7%
ホテル事業	387	428	40	10.6%
その他の事業	70	75	4	6.8%
営業利益	553	770	217	39.3%
テーマパーク事業	460	629	168	36.6%
ホテル事業	92	133	41	45.0%
その他の事業	△ 1	5	6	-
経常利益	556	777	220	39.6%
税金等調整前四半期純利益	556	777	220	39.6%
親会社株主に帰属する四半期純利益	386	545	158	41.0%

主に入園者数の増加により、売上高と各利益が期初予想を上回った

10

## 2. 上半期実績 (期初予想比較)

期初予想比較は、ご覧の通りです。


主にテーマパーク事業の入園者数の増から売上高と各利益が期初予想を上回りました。

セグメント別の実績と増減要因をご説明します。



## 2. 上半期実績(期初予想比較)－ 主な増減要因

(億円)

テーマパーク事業① 	2024年3月期 期初予想	2024年3月期 実績	増減	増減率
売上高	2,113	2,339	225	10.7%
	2024年3月期 期初予想比較	主な増減要因		
入園者数	上回った	・海外ゲスト数の増 ・東京ディズニーリゾート40周年イベントによる増 ・期間限定券種による増		
ゲスト1人当たり売上高	上回った			
アトラクション・ショー収入	ほぼ同様	・低価格帯チケット構成比の増（平日を中心とした海外ゲストの増や期間限定券種の増など） ・ディズニー・プレミアアクセスの増		
商品販売収入	上回った	・レギュラー商品の増 ・東京ディズニーリゾート40周年関連商品販売の増		
飲食販売収入	上回った	・東京ディズニーリゾート40周年関連メニュー・ フードスーベニア販売の増 ・入園者数増加によるテーブルサービス店舗の利用構成比の減		

### テーマパークにおける暑さ対策（一例）

#### びしょ濡れプログラム



バイマックスのミッション・クールダウン  
©Disney



びしょ濡れタイム©Disney



アトラクションの待ち列に設置した扇風機  
©Disney



ファンが内蔵されたコスチューム  
©Disney

入園者数とゲスト1人当たり売上高の増により、増収

11

## 2. 上半期実績(期初予想比較)－ 主な増減要因

テーマパーク事業の売上高は、225億円上回りました。

入園者数につきまして、  
海外ゲスト数の増加や東京ディズニーリゾート40周年イベントにより、上回りました。

今年は猛暑により一部のエンターテイメントや屋外施設の営業を中止するなど、  
ゲストの皆さまには大変ご迷惑をおかけしました。  
屋外での体験が多い施設であるテーマパークにおいて、  
気候変動リスクはサステナビリティ課題の一つであると捉えています。  
今年は暑い夏を涼しくお楽しみいただくびしょ濡れプログラムの実施に加え、  
ご覧のような対策を講じましたが、テーマパーク全体の運営形態や、各施設の運営方法、  
エンターテイメントのあり方などについて引き続き検討を進めてまいります。

ゲスト1人当たり売上高につきまして、  
アトラクション・ショー収入は低価格帯チケットの構成比の増による減少の影響があったものの、  
ディズニー・プレミアアクセスの増により、ほぼ同様でした。  
商品販売収入と飲食販売収入は  
東京ディズニーリゾート40周年関連の魅力的な商品やメニューの好調などにより上回りました。



## 2. 上半期実績(期初予想比較) – 主な増減要因

	2024年3月期 期初予想	2024年3月期 実績	増減	増減率
<b>テーマパーク事業②</b> 				
売上高	2,113	2,339	225	10.7%
営業利益	460	629	168	36.6%

### 営業利益の増

営業利益の増		諸経費の減	
売上高の増		諸経費の減	約10
商品・飲食原価率の減	約25	システム関連費用の減	約5
人件費の増	約△ 5	販売促進費の減など	約5
準社員人件費の増	約△ 10	※減価償却費はほぼ同様	
正社員人件費の減など	約5		

※コストにおける△表示は、営業利益に対する減少影響を示しています。

売上高の増加と商品・飲食原価率、諸経費の減などにより増益

12

## 2. 上半期実績(期初予想比較) – 主な増減要因

テーマパーク事業の営業利益は、  
売上高の増加と商品・飲食原価率や諸経費の減により、168億円上回りました。

商品・飲食原価率は、  
商品・飲食ともに原材料高騰の影響が顕在化しなかったことに加え、  
飲食原価率が、売上高の増加により製造人件費率が低下したことなどから減したため、  
下回りました。

人件費は、  
入園者数増加に伴う労働時間の増により  
準社員人件費が増加したことなどから、上回りました。

諸経費は、第3四半期以降への時期ずれにより、下回りました。

なお、減価償却費はほぼ同様でした。



## 2. 上半期実績(期初予想比較) - 主な増減要因

(億円)

HOTEL ホテル事業	2024年3月期	2024年3月期	増減	増減率
	期初予想	実績		
売上高	387	428	40	10.6%
営業利益	92	133	41	45.0%

### 売上高の増

・テーマパーク入園者数の増加に伴う宿泊収入の増

### 営業利益の増

・売上高の増

テーマパーク入園者数の増加に伴う宿泊収入などにより、増収増益

その他の事業	2024年3月期	2024年3月期	増減	増減率
	期初予想	実績		
売上高	70	75	4	6.8%
営業利益	△ 1	5	6	-

### 売上高の増

・乗降客数の増によるモノレール事業の増

### 営業利益の増

・売上高の増

モノレール事業の増収により、黒字に転換

13

## 2. 上半期(期初予想比較) - 主な増減要因

ホテル事業は、  
テーマパーク入園者数の増加に伴う宿泊収入の増加により、  
売上高は40億円上回りました。

営業利益は、  
売上高が増加したことなどから、41億円上回りました。

その他の事業は、  
テーマパーク入園者数の増加に伴うモノレール事業の増収により、  
売上高は4億円上回り、黒字に転換しました。



## II. 通期業績予想の上方修正

---

### II. 通期業績予想の上方修正

2024年3月期の通期業績予想を上方修正することとしましたので、ご説明します。



## 1. 通期修正予想(前期・期初予想比較)

(億円)

連結損益計算書	2024年3月期 修正予想	2023年3月期 実績	対前期 増減	対前期 増減率	2024年3月期 期初予想	対期初予想 増減	対期初予想 増減率
売上高	5,946	4,831	1,115	23.1%	5,439	507	9.3%
テーマパーク事業	4,916	3,960	955	24.1%	4,500	416	9.3%
ホテル事業	869	738	130	17.7%	788	80	10.2%
その他の事業	160	131	29	22.0%	150	10	6.7%
営業利益	1,467	1,111	355	31.9%	1,221	245	20.1%
テーマパーク事業	1,220	933	286	30.7%	1,037	183	17.7%
ホテル事業	236	172	63	36.8%	179	56	31.6%
その他の事業	6	2	3	165.1%	1	4	239.9%
経常利益	1,473	1,117	355	31.8%	1,225	248	20.2%
税金等調整前当期純利益	1,473	1,120	353	31.5%	1,225	248	20.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	1,051	807	244	30.3%	869	181	20.9%
	2024年3月期 修正予想	2023年3月期 実績	対前期 増減	対前期 増減率	2024年3月期 期初予想	対期初予想 増減	対期初予想 増減率
入園者数 (万人)	2,630	2,209	421	19.1%	2,510	120	4.8%
ゲスト1人当たり売上高 (円)	16,623	15,748	875	5.6%	16,030	593	3.7%
アトラクション・ショー収入	8,195	7,821	374	4.8%	8,040	155	1.9%
商品販売収入	5,221	4,822	399	8.3%	4,918	303	6.2%
飲食販売収入	3,207	3,105	102	3.3%	3,072	135	4.4%

上半期実績の好調に加え、  
下半期に売上高の増加を見込み、通期業績予想を上方修正

15

## 1. 通期修正予算 (前期・期初予想比較)

上半期実績の好調に加え、  
下半期に売上高の増加を見込み、  
通期業績予想を上方修正することとしました。

上方修正した通期業績予想は、ご覧の通りです。

修正予想の上半期は確定した実績数値を用いて策定していることから、  
下半期に焦点を当て、期初予算と比較してご説明します。



## 2. 下半期修正予想(前期・期初予想比較)

(億円)

連結損益計算書	2024年3月期 下半期修正予想	2023年3月期 下半期実績	対前期 増減	対前期 増減率	2024年3月期 下半期期初予想	対2024年3月期 下半期期初予想 増減	対2024年3月期 下半期期初予想 増減率
売上高	3,103	2,790	312	11.2%	2,867	235	8.2%
テーマパーク事業	2,577	2,314	262	11.3%	2,386	190	8.0%
ホテル事業	441	400	41	10.3%	401	39	9.9%
その他の事業	84	75	9	12.2%	79	5	6.5%
営業利益	696	732	△ 35	△ 4.9%	668	27	4.2%
テーマパーク事業	590	620	△ 29	△ 4.8%	576	14	2.5%
ホテル事業	102	103	△ 0	△ 0.7%	87	15	17.4%
その他の事業	0	6	△ 5	△ 88.2%	3	△ 2	△ 75.3%
経常利益	696	732	△ 35	△ 4.9%	668	27	4.1%
税金等調整前四半期純利益	696	734	△ 38	△ 5.2%	668	27	4.1%
親会社株主に帰属する四半期純利益	506	542	△ 36	△ 6.7%	483	23	4.8%

期初予想から入園者数とゲスト1人当たり売上高の増による売上高の増加を見込み、増収増益の予想

16

## 2. 下半期修正予想 (前期・ 期初予想比較)

下半期の業績予想はご覧のとおりです。

入園者数とゲスト1人当たり売上高の増により、売上高および各利益は期初予想を上回る見込みです。

セグメント別の実績と増減要因をご説明します。





## 2. 下半期修正予想(期初予想比較) - 主な増減要因

				(億円)	
テーマパーク事業①	2024年3月期 下半期期初予想	2024年3月期 下半期修正予想	増減	増減率	
	売上高	2,386	2,577	190	8.0%
		2024年3月期 下半期修正予想	主な増減要因		
入園者数		上回る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京ディズニーリゾート40周年イベントによる増</li> <li>・海外ゲスト数の増</li> </ul>		

### 2024年3月期下半期 入園者数の前提

国内ゲスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京ディズニーリゾート40周年イベントの上半期の好調が継続</li> <li>・引き続き年間パスポートを休止</li> </ul>
海外ゲスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下半期は上半期の好調を考慮し、海外ゲストの比率は約9%、人数は約120万人</li> <li>－ 例年同様、上半期と比較して下半期は低下</li> <li>－ 中国本土以外の国からの訪日外国人旅行客は地方分散の傾向</li> <li>－ 中国本土からのゲストは、団体旅行が解禁されたものの、直近の航空券の発券状況を見ると上半期からの増加は限定的</li> </ul>
1日当たりの入園者数の上限	<ul style="list-style-type: none"> <li>・足もとは上半期よりも引き上げて運営</li> <li>・今後のさらなる引き上げについては満足度などに鑑み慎重に判断</li> </ul>

東京ディズニーリゾート40周年イベントや海外ゲストの回復などにより、  
期初予想を上回る見込み

17

## 2. 下半期修正予想(期初予想比較) - 主な増減要因

テーマパーク事業の売上高は、190億円増の2,577億円を見込んでいます。

入園者数につきましては、  
下半期は東京ディズニーリゾート40周年イベントや海外ゲストの増により上回り、  
年間で2,630万人を見込んでいます。

海外ゲストにつきましては、  
上半期の好調が継続するものの、  
例年同様、上半期と比較して下半期は低下することや、  
訪日外国人旅行客の地方分散などにより  
下半期の入園者数に占める比率は約9%、人数は約120万人を見込んでいます。

なお、エンターテインメントの再開・拡充とともに  
アトラクションに集中していた需要の分散が進んでいるため、  
足もとのパークの1日当たりの入園者数の上限を上半期よりも引き上げています。  
今後のさらなる引き上げについては、満足度などに鑑み慎重に判断してまいります。



## 2. 下半期修正予想(期初予想比較) - 主な増減要因

	2024年3月期 下半期修正予想	主な増減要因
ゲスト1人当たり売上高	上回る	
アトラクション・ショー収入	上回る	・チケット構成比の変化による増 ・ディズニー・プレミアアクセスの増
商品販売収入	上回る	・レギュラー商品の増
飲食販売収入	上回る	・東京ディズニーリゾート40周年関連メニュー・ フードスーベニア販売の増

各収入が期初予想を上回る見込み

18

## 2. 下半期修正予想(期初予想比較) - 主な増減要因

ゲスト1人当たり売上高は、各収入ともに期初予算を上回る見込みです。  
アトラクション・ショー収入は  
チケット構成比の変化やディズニー・プレミアアクセスの増により、上回る見込みです。  
商品販売収入は、  
レギュラー商品の好調などにより、上回る見込みです。  
飲食販売収入は、  
東京ディズニーリゾート40周年関連のメニューやフードスーベニアの好調により、  
上回る見込みです。



## 2. 下半期修正予想(期初予想比較) – 主な増減要因

(億円)

テーマパーク事業② 	2024年3月期 下半期期初予想	2024年3月期 下半期修正予想	増減	増減率
売上高	2,386	2,577	190	8.0%
営業利益	576	590	14	2.5%

### 営業利益の増

営業利益の増		諸経費の増	
売上高の増		諸経費の増	約△ 50
人件費の増	約△ 60	販売促進費の増	約△ 10
一時金支給見込みによる増	約△ 45	メンテナンス費の増	約△ 10
準社員人件費の増	約△ 15	システム関連費用の増	約△ 5
		その他	約△ 25
		減価償却費の減	1

※商品・飲食原価率はほぼ同様

※コストにおける△表示は、営業利益に対する減少影響を示しています。

人件費や諸経費が増加するものの、売上の増加により営業利益が増加する見込み

19

## 2. 下半期修正予想(期初予想比較) – 主な増減要因

テーマパーク事業の営業利益は、  
人件費や諸経費が増加するものの、売上高の増加により、  
14億円増加し、590億円となる見込みです。

人件費は、  
一時金支給の可能性を見込んでいることや  
入園者数増加に伴う労働時間の増により準社員人件費の増加を見込むことなどから、  
増加する見込みです。

諸経費は、  
集客活動を含む販売促進費の増やメンテナンス計画の見直しなどにより、  
増加する見込みです。



## 2. 下半期修正予想(期初予想比較) - 主な増減要因

(億円)

ホテル事業 	2024年3月期	2024年3月期	増減	増減率
	下半期期初予想	下半期修正予想		
売上高	401	441	39	9.9%
営業利益	87	102	15	17.4%

### 売上高の増

・テーマパーク入園者数の増加に伴う宿泊収入の増

### 営業利益の増

・売上高の増  
・人件費の増(約△15) - 労働時間の増、一時金支給見込みによる増  
・諸経費の増

※コストにおける△表示は、営業利益に対する減少影響を示しています。

人件費が増加するものの、テーマパークの入園者数増加に伴い増収増益の見込み

その他の事業 	2024年3月期	2024年3月期	増減	増減率
	下半期期初予想	下半期修正予想		
売上高	79	84	5	6.5%
営業利益	3	0	△2	△75.3%

### 売上高の増

・乗降客数の増によるモノレール事業の増

### 営業利益の減

・人件費の増  
・諸経費の増

その他の事業は増収減益の見込み

20

## 2. 下半期修正予想(期初予想比較) - 主な増減要因

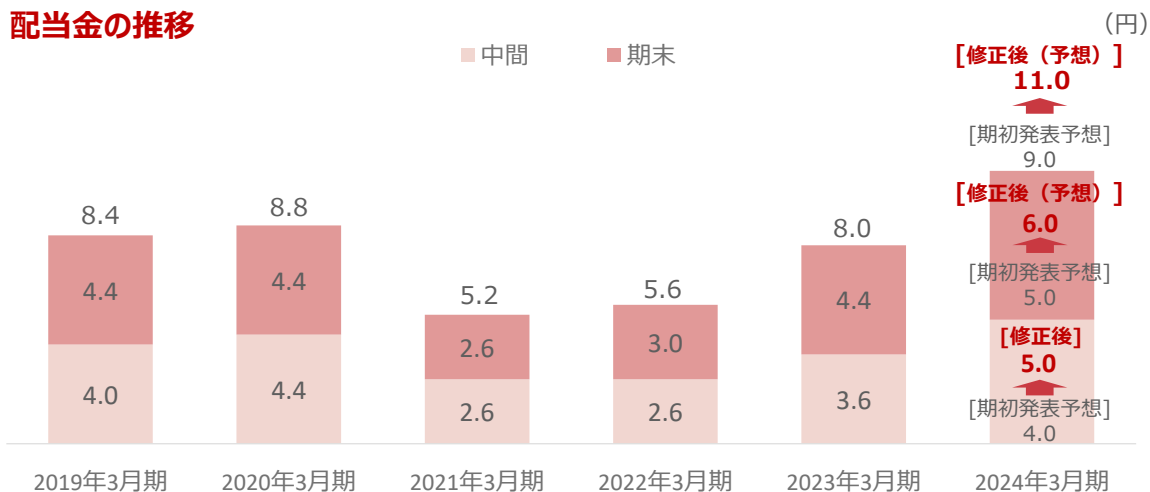
ホテル事業の売上高は、  
テーマパーク入園者数の増加に伴う宿泊収入の増加により、  
39億円増の441億円となる見込みです。  
営業利益は、人件費が増加するものの、売上高の増加により、  
15億円増加し、102億円となる見込みです。

その他の事業は、  
テーマパーク入園者数の増加に伴いモノレール事業が増収するものの、  
人件費や諸経費の増により、増収減益の見込みです。

**中間および期末の配当金を期初予想から各1円増配し、  
年間配当金は1株当たり11円を予想**

- 2024年3月期第2四半期決算の実績と通期業績予想の見通しを考慮
- 新型コロナウイルス感染症流行前を超える水準になる予定

#### 配当金の推移



\*2023年4月1日を効力発生日として、1株につき5株の株式分割を実施しました。2023年3月期以前の配当は、株式分割からさかのぼって便宜的に計算したものです。

**年間配当金を期初予想から2円増配**

### 3. 配当について

2024年3月期第2四半期決算の実績と通期業績予想の見通しを踏まえ、  
中間および期末の配当金を期初予想から各1円増配し、  
年間配当金を11円とすることとしました。

これは、前期の配当を今年4月の株式分割からさかのぼって便宜的に計算して比較すると、  
年間3円に相当する増配で、  
新型コロナウイルス感染症流行前を超える水準です。

当社グループは、株主の皆様への利益還元を経営の重要政策の一つとして認識していますので、  
外部環境も勘案しつつ、今後も安定的な配当を目指します。

## Ⅲ. 2024中期経営計画の更新

---

### Ⅲ. 2024中期経営計画の更新

続いて2024中期経営計画の更新についてご説明します。



## 1. 2024中期経営計画の更新

【方針】 新型コロナウイルス感染症の流行による影響からの回復と将来に向けたチャレンジ

目標 ゲストの体験価値向上

高い満足度を維持

### 財務数値の回復

ーゲストの来園回帰を確実に図りながら段階的な回復を目指す

#### ●2024年度の財務目標

連結営業利益 1,000億円以上

連結営業キャッシュ・フロー\* 過去最高（1,285億円以上）

ROE 8.0%以上

財務数値は想定を大幅に上回るペースで急回復

連結営業利益、ROE：2022年度に達成済み

連結営業キャッシュ・フロー\*：2023年度中に達成見込み

そのため、2024年度の財務目標を更新する

戦略 テーマパーク事業戦略

ーゲストの体験価値向上

ー効率的なパーク運営

着実に進捗

戦略の方向性は維持しながら、達成に向けて取り組みを推進

### ホテル事業戦略

ー東京ディズニーリゾート全体でのゲスト体験価値向上

### 人事戦略

ー従業員の働きがいを最大化しながら、持続可能な人員体制へ変化

\*営業キャッシュ・フロー＝親会社株主に帰属する当期純利益＋減価償却費

2024年度の全ての財務目標を今年度中に達成する見込みのため、更新する

23

## 1. 2024中期経営計画の更新

当社は2022年4月に2024中期経営計画を発表し、新型コロナウイルス感染症流行への対応と並行して、回復と将来に向けたチャレンジを重ねてきました。

2024中期経営計画は、先行きが見通せず、不透明な環境下で策定しましたが、新型コロナウイルス感染症流行への世間の認識や対応が変化していく中、弊社の提供価値を変わらず多くのゲストに受け入れていただき、想定以上の結果を残すことが出来ました。

各戦略については、ゲスト満足度を高い水準で維持しながら着実に進捗させておりますが、2024年度の財務目標については、想定を大幅に上回るペースで回復し、2022年度中に達成したものを含め、全ての目標を今期中に達成する見込みです。

そのため、戦略の方向性は維持しながら、足もとの環境や状況変化を踏まえて、2024年度の財務目標を更新することにしました。



## 1. 2024中期経営計画の更新

### 財務目標の更新

【財務目標更新にあたっての前提】 **2023年度の予想をもとに、主に以下要素を考慮して策定**

- (+) ファンタジースプリングスの開業効果、海外ゲストの更なる回復を見込む、  
2023年10月以降の変動価格制の価格帯変更の通期寄与によるゲスト1人当たり売上高の増など
- (-) 東京ディズニーリゾート40周年イベントの終了による反動、ファンタジースプリングス開業に伴うコスト増など

	2024中期経営計画 発表時の目標	2023年度修正予想	2024年度更新後の目標
連結営業利益	<b>1,000億円以上</b>	<b>1,467億円</b>	<b>1,600億円レベル</b>
連結 営業キャッシュ・フロー	<b>過去最高</b> (1,285億円以上)	<b>1,520億円</b>	<b>1,800億円レベル</b>
ROE	<b>8.0%以上</b>	<b>12.0%</b>	<b>11%レベル</b>

今期修正予想をもとに2024年度の財務目標を設定

2024年度の連結営業利益、連結営業キャッシュ・フローは過去最高を更新する見込み

24

## 1. 2024中期経営計画の更新

2024年度の新たな財務目標は、  
連結営業利益1,600億円レベル、連結営業キャッシュ・フロー1,800億円レベル、  
ROE11%レベルとしました。

2024中期経営計画策定時とは大きく環境が異なるため、今期の修正予想をもとに  
増減しうる要素を考慮して策定しています。

東京ディズニーリゾート40周年イベント効果の剥落や、  
ファンタジースプリングス開業によるコスト増はあるものの、  
ファンタジースプリングスの開業効果や海外ゲストの更なる回復などにより、  
過去最高の連結営業利益、連結営業キャッシュ・フローを目指します。

更新した財務目標は、今期の修正予想を大きく上回るストレッチな目標であると認識しており、  
決して簡単に達成できる目標ではないですが、全社一丸となって財務目標を達成していきます。





## 1. 2024中期経営計画の更新

### 2024年度の入園者数・ゲスト1人当たり売上高の前提

	2024中期経営計画 発表時	2023年度修正予想	2024年度更新後の目標
入園者数	2,600万人レベル	2,630万人	2,850万人レベル
	<small>※年間パスポートの再開は見込んでいない</small> 2023年度からの増減要素 東京ディズニーリゾート40周年イベントの終了による反動があるものの、新規コンテンツの導入などにより、2023年度と同レベルの水準を維持 +ファンタジースプリングスの開業によるキャパシティの増加 +海外ゲストは訪日外国人旅行客数の増加により、更なる増加を見込む		
ゲスト1人当たり売上高	14,500円レベル	16,623円	17,000円レベル
	2023年度からの増減要素 +ファンタジースプリングスにおけるディズニー・プレミアアクセスなどの販売によるゲスト1人当たり売上高の増 +2023年10月以降の変動価格制の価格帯変更の通期寄与		

東京ディズニーリゾート40周年イベントの終了による反動があるものの、  
2024年度は今期を上回る水準を目指す

25

## 1. 2024中期経営計画の更新

財務目標の更新に伴い、発表していた入園者数とゲスト1人当たり売上高も更新します。

入園者数については、2,850万人レベルを目指します。  
 まずは、東京ディズニーリゾート40周年イベントの効果が剥落する中でも、2023年度と同レベルの水準を維持します。  
 東京ディズニーリゾート40周年イベントの効果が剥落する中で、今期と同等の入園者数を維持することは簡単なことではありませんが、コンテンツの導入や平準化の推進など、着実に準備を進めていきたいと思いを。

その上で、ファンタジースプリングスの開業によるキャパシティの増加や海外ゲストは訪日外国人旅行客数の増加による更なる回復を見込み、目標を設定しました。

この目標は、1日あたりの入園者数の上限と平準化の進み具合も考慮して設定していますが、想定以上に海外ゲストなどの来園が増え、平準化が進めばアップサイドに繋がる可能性があると考えています。

ゲスト1人当たり売上高については、17,000円レベルを目指します。  
 ファンタジースプリングスにおけるディズニー・プレミアアクセスなどの販売や、2023年10月以降の変動価格制の価格帯変更の通期寄与などを見込んでいます。



# 1. 2024中期経営計画の更新

## 財務方針の更新

		2024中期経営計画 発表時	更新内容
連結 営業キャッシュ・フロー		2024中期経営計画期間中で約3,500億円	2024中期経営計画期間中で約4,600億円
配分方針		営業キャッシュ・フローを投資に優先して配分	変更なし
資金 配分	投資	<b>テーマパーク事業への投資に加えESGや将来の種まきに着手</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>成長投資 1,600億円</li> <li>更新改良 750億円</li> </ul>	方針に変更なし <ul style="list-style-type: none"> <li>成長投資 2,150億円</li> <li>更新改良 900億円</li> </ul>
	株主 還元	<ul style="list-style-type: none"> <li>配当については「安定的な配当を目指す」という方針のもと、2024中期経営計画期間中に新型コロナウイルス感染症流行前の水準に戻すことを目指す</li> <li>自己株式の取得は事業環境や業績推移を総合的に判断し実施を検討する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>配当金額は2023年度で新型コロナウイルス感染症流行前の水準を上回る予定</li> <li>配当の方針や、自己株式の取得に関する方針は変更なし</li> </ul>
	債務 返済	<ul style="list-style-type: none"> <li>約600億円</li> </ul>	変更なし
手元資金		<ul style="list-style-type: none"> <li>① 運転資金（数か月分）</li> <li>② 地震災害等有事でも未着手の設備投資を継続するための資金500億円（別途、有事の運転資金等への備えとして地震リスク対応型コミットメントラインの借入枠1,500億円あり）</li> <li>③ 2025年度以降の成長に向けた投資資金</li> </ul>	基本的には変更なし （2024年3月13日をもって地震リスク対応型コミットメントラインの契約期限を迎えるため、今後の方針については別途検討予定）

26

## 1. 2024中期経営計画の更新

続いて財務方針についてご説明します。

2024中期経営計画時に発表した「営業キャッシュ・フローを投資に優先して配分する」という配分方針や手元資金の考え方については現時点で変更はありませんが、足もとの状況を踏まえて、投資額を更新しました。

成長投資については、従前より発表しているファンタジースプリングスの投資額増額や、スペースマウンテンのリニューアルに関連した支払時期の前倒しなどにより2,150億円、更新改良については、安全・老朽化対策やITの更新改良投資を新たに見込み、900億円と試算しています。

株主還元については、2024中期経営計画中に新型コロナウイルス感染症流行前の水準に戻すことを目指しておりましたが、今期の修正予想にて発表しましたとおり、感染症流行前の水準を上回る予定となっております。

## 2. ファンタジースプリングスの投資対効果の更新

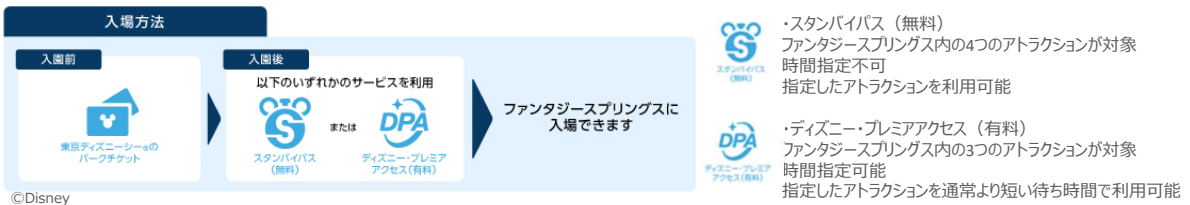
### ファンタジースプリングスの投資対効果の更新



### ファンタジースプリングス開業初期の考え方

開業初期は、高い体験価値を維持するため、ゲストの需要や体験価値、オペレーションの習熟度に鑑み、エリアのキャパシティをコントロールした運営を行う

開業初期は、対象アトラクションのスタンバイパス（無料）またはディズニー・プレミアアクセス（有料）を取得したゲストがエリアへ入場できる



ゲストに高い体験価値を提供し続けながら、収益を拡大していく

## 2. ファンタジースプリングスの投資対効果の更新

続いて、ファンタジースプリングスの投資対効果の見直しについてご説明いたします。

2022年10月に感染症流行などによる理由から、投資額の増額を発表しており、その後売上向上施策について、社内で議論を続けてきました。

結果的に、従来お伝えしていた連結売上高500億円レベルを大きく上回る、年間約750億円の押し上げとなる見込みです。

通年での安定稼働を前提とした試算のため、2024年度の財務目標に織り込まれている数字と同一ではなく、複数年経ったあとの時間軸で実現できると考えています。

具体的には、施設のキャパシティ増加に伴う入園者数の増や、ディズニー・プレミアアクセスなどを含む有償コンテンツの販売、東京ディズニーシー・ファンタジースプリングスホテルの開業によるホテル収入の増加などを加味しています。

開業初期は、エリアに入場頂いたゲストに高い体験価値を提供するため、ゲストの需要や体験価値、オペレーションの習熟度に鑑み、エリアのキャパシティをコントロールした運営を行います。

現時点で全てを皆さまにお話しすることは出来ませんが、ディズニー・プレミアアクセスや、スタンバイパスを取得したゲストがエリアに入場できるようになる予定です。

ゲストのニーズに合わせてお楽しみいただけるよう有償・無償問わず選択肢を提供し、高い体験価値を提供していきます。

## ファンタジースプリングスの開業日は2024年6月6日に決定



「フロースキングダム」



「ラプンツェルの森」



「ピーター・パンのネバーランド」



「東京ディズニーシー・ファンタジースプリングスホテル」

Artist Concept Only ©Disney

28

先日、ファンタジースプリングスの開業日を2024年6月6日と決定し、リリースしました。

3つのディズニー映画をテーマとしたエリアやアトラクションはもちろん、ホテルやロックワークなどの環境への作り込みなど、こだわり抜いた「世界観」を提供できる準備が整いつつあります。開業日が近づき、準備が整っていくにつれ、このエリアを早く皆さまにお披露目したい、最大限に楽しんでいただきたいという思いが増すばかりです。

唯一無二の東京ディズニーシーにファンタジースプリングスが加わることで、今まで以上に存在感や希少性が際立つことで、ブランドとしての価値が高まり、今後の東京ディズニーリゾートの成長の起爆剤になると確信しています。

ファンタジースプリングスを存分に活用し、東京ディズニーリゾートとしての収益力を高めていくことで、2025年度以降は更なる成長を目指していきます。



# Appendix

---



「ディズニー・プレミアアクセス」と「東京ディズニーリゾート40周年記念プライオリティパス」の対象



ディズニー・プレミアアクセス

コンテンツ	導入日	価格	コンテンツ	導入日	価格
◆美女と野獣“魔法のものがたり”	2022年 5月19日	¥2,000	◆ソアリン：ファンタスティック・フライト	2022年 5月19日	¥2,000
◆スプラッシュ・マウンテン	2022年 12月1日	¥1,500	◆トイ・ストーリー・マニア！	2022年 6月10日	¥2,000
◆ベイマックスのハッピーライド	2022年 12月1日	¥1,500	◇ピリーヴ！～シー・オブ・ドリームス～	2022年 11月11日	¥2,500
◇ディズニー・ハーモニー・イン・カラー	2023年 4月15日	¥2,500	◆タワー・オブ・テラー	2022年 12月9日	¥1,500
◇東京ディズニーランド・ エレクトリカルパレード・ドリームライツ	2023年 4月15日	¥2,500	◆センター・オブ・ジ・アース	2022年 12月9日	¥1,500
◇スピーキー“Boo!”パレード	2023年 9月15日*1	¥2,500			
◇ディズニー・クリスマス・ストーリーズ	2023年 11月8日*2	¥2,500			

◆：アトラクション ◇：エンターテイメント

\*1 2023年9月15日～10月31日の間、ディズニー・プレミアアクセス対象です。

\*2 2023年11月8日～12月25日の間、ディズニー・プレミアアクセス対象です。

東京ディズニーリゾート40周年記念プライオリティパス

アトラクション	アトラクション
スター・ツアーズ：ザ・アドベンチャーズ・コンティニュー	アクアトピア“びしょ濡れ”バージョン* <b>終了</b>
スペース・マウンテン	インディ・ジョーンズ®・アドベンチャー：クリスタルスカルの魔宮
バズ・ライトイヤーのアストロブラスター	海底2万マイル
ビッグサンダー・マウンテン	タートルトーク
ブーさんのハニーハント	ニモ&フレンズ・シーライダー
ホーンテッドマンション	マジックランプシアター
モンスターズ・インク“ライド&ゴーシーク！”	レイジングスピリッツ

©Disney

\*アクアトピアについては、夏のびしょ濡れプログラム期間限定で対象でした(9月6日まで)。30

※2023年10月30日時点で公表しているものを記載しています。



# 2024年3月期 テーマパークイベント・新規アトラクションカレンダー

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
東京ディズニーランド	2023/4/15~2024/3/31 NEW			「東京ディズニーリゾート40周年“ドリームゴーラウンド”」		
				7/4~9/6	☆スプラッシュ・マウンテン“凡しよ濡れMAX”	9/15~10/31 ★「ディズニー・ハロウィン」
				7/4~9/6 NEW	☆ベイマックスのミッション・クールダウン	
				7/4~9/6 NEW	☆びしょ濡れトーンタウン	
東京ディズニーシー	2023/4/15~2024/3/31 NEW			「東京ディズニーリゾート40周年“ドリームゴーラウンド”」		
				7/4~9/6	☆【びしょ濡れアトラクション】アクアトピア	9/15~10/31 ★「ディズニー・ハロウィン」
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
東京ディズニーランド	2023/4/15~2024/3/31 NEW			「東京ディズニーリゾート40周年“ドリームゴーラウンド”」		
	9/15~10/31 ★「ディズニー・ハロウィン」	11/8~12/25 ★「ディズニー・クリスマス」		1/1~1/8 ☆お正月のスペシャルイベント		
東京ディズニーシー	2023/4/15~2024/3/31 NEW			「東京ディズニーリゾート40周年“ドリームゴーラウンド”」		
	9/15~10/31 ★「ディズニー・ハロウィン」	11/8~12/25 ★「ディズニー・クリスマス」		1/1~1/8 ☆お正月のスペシャルイベント		

★：スペシャルイベント ☆：プログラム ◆：新規アトラクション・ショーなど  
 ※イベントの名称、開催期間および内容は変更になる場合があります。  
 ※2023年10月30日時点で公表しているものを記載しています。



## 通期修正予想(前期比較)

### テーマパーク事業①

	2023年3月期 実績	2024年3月期 修正予想	増減	増減率
売上高 (億円)	3,960*	4,916	955	24.1%
入園者数 (万人)	2,209	2,630	421	19.1%
ゲスト1人当たり売上高 (円)	15,748	16,623	875	5.6%
アトラクション・ショー収入	7,821	8,195	374	4.8%
商品販売収入	4,822	5,221	399	8.3%
飲食販売収入	3,105	3,207	102	3.3%

\* 2022年5月末を以って払い戻しを終了した有効期限切れチケットの収入34億円を売上高に計上しています。ゲスト1人当たり売上高には含まれません。

#### 入園者数の増

- ・東京ディズニーリゾート40周年イベントによる増
- ・海外ゲストの増
- ・制限緩和による増

#### ゲスト1人当たり売上高の増

- ・アトラクション・ショー収入の増
  - ディズニー・プレミアアクセスの増
  - 変動価格制による高価格帯チケットの構成比の増
- ・商品販売収入の増
  - 東京ディズニーリゾート40周年関連商品販売の増
  - レギュラー商品の増
- ・飲食販売収入の増
  - 東京ディズニーリゾート40周年関連メニュー・フードスーベニア販売の増

入園者数およびゲスト1人当たり売上高の増により増収





## 通期修正予想(前期比較)

(億円)

### テーマパーク事業②

	2023年3月期 実績	2024年3月期 修正予想	増減	増減率
売上高	3,960	4,916	955	24.1%
営業利益	933	1,220	286	30.7%

#### 営業利益の増

(億円)

売上高の増	
商品・飲食原価率の増	約△ 20
人件費の増	約△ 140
準社員人件費の増	約△ 95
正社員人件費の増	約△ 30
その他	約△ 15

諸経費の増	約△ 170
メンテナンス費の増	約△ 45
エンターテイメント関連費の増	約△ 15
販売促進費増	約△ 15
システム関連費用の増	約△ 15
スペシャルイベント関連費の増	約△ 10
その他	約△ 70
減価償却費の増	△ 9

新規資産取得による増など


※コストにおける△表示は、営業利益に対する減少影響を示しています。

コストは増加するものの、売上高の増加などにより増益



## 通期修正予想(前期比較)

(億円)

ホテル事業 	2023年3月期 実績	2024年3月期 修正予想	増減	増減率
売上高	738	869	130	17.7%
ディズニーホテル	673	786	112	16.8%
その他ホテル	65	83	17	27.5%
営業利益	172	236	63	36.8%

### 売上高の増

・テーマパーク入園者数の増加に伴う宿泊収入の増

### 営業利益の増

・売上高の増  
・人件費の増 (約△ 25) - 在籍者数の増、賃金改定による増など  
※コストにおける△表示は、営業利益に対する減少影響を示しています。

## 人件費が増加するものの、テーマパークの入園者数増加に伴い増収増益の見込み

(億円)

その他の事業 	2023年3月期 実績	2024年3月期 修正予想	増減	増減率
売上高	131	160	29	22.0%
営業利益	2	6	3	165.1%

### 売上高の増

・乗降客数の増によるモルレル事業の増  
・不動産賃料収入の増によるイクスピアリ事業の増

### 営業利益の増

・売上高の増  
・諸経費の増

## モルレル事業の増収などにより増収増益



## 投資額・償却費 上半期実績(前年同期比較)

(億円)

投資額 (有形固定資産・無形固定資産・長期前払費用)	2023/3 実績	2024/3 実績	増減	主な増減要因
テーマパーク事業	232	248	15	
東京ディズニーランド	45	68	23	スペース・マウンテンのリニューアル、更新改良、スペシャルイベントによる増
東京ディズニーシー	135	142	7	
その他	52	36	△ 15	システム投資の減
ホテル事業	82	23	△ 59	東京ディズニーシー大規模開発プロジェクトの減
その他の事業	21	6	△ 15	モルレル事業、劇場事業の減
(消去又は全社)	△ 0	△ 0	0	
合計	336	277	△ 58	

償却費 (有形固定資産・無形固定資産・長期前払費用)	2023/3 実績	2024/3 実績	増減	主な増減要因
テーマパーク事業	186	193	6	
東京ディズニーランド	81	80	△ 0	
東京ディズニーシー	60	64	3	
その他	44	48	3	
ホテル事業	24	22	△ 2	
その他の事業	15	16	0	
(消去又は全社)	△ 0	△ 0	0	
合計	226	231	4	



## 投資額・償却費 通期修正予想(前年同期比較)

(億円)

投資額 (有形固定資産・無形固定資産・長期前払費用)	2023/3 実績	2024/3 修正予想	増減	主な増減要因
テーマパーク事業	782	931	149	
東京ディズニーランド	123	248	124	スペース・マウンテン、スペシャルイベントの増
東京ディズニーシー	492	470	△ 21	東京ディズニーシー大規模開発プロジェクトの減
その他	165	212	46	システム投資、更新改良の増
ホテル事業	178	78	△ 99	東京ディズニーシー大規模開発プロジェクトの減
その他の事業	35	22	△ 12	モルレル事業の減
(消去又は全社)	△ 0	△ 0	0	
合計	994	1,032	37	

償却費 (有形固定資産・無形固定資産・長期前払費用)	2023/3 実績	2024/3 修正予想	増減	主な増減要因
テーマパーク事業	381	391	9	
東京ディズニーランド	163	163	△ 0	
東京ディズニーシー	124	129	4	
その他	93	98	5	
ホテル事業	48	44	△ 4	
その他の事業	33	33	0	
(消去又は全社)	△ 0	△ 0	0	
合計	463	469	5	



## 投資額・償却費 通期修正予想(期初予想比較)

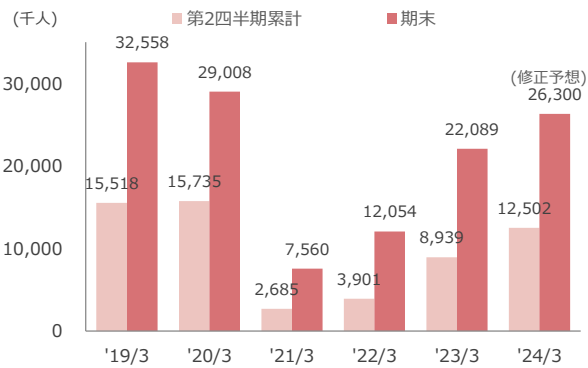
(億円)

投資額 (有形固定資産・無形固定資産・長期前払費用)	2024/3 期初予想	2024/3 修正予想	増減	主な増減要因
テーマパーク事業	1,081	931	△ 149	
東京ディズニーランド	256	248	△ 7	
東京ディズニーシー	623	470	△ 153	東京ディズニーシー大規模開発プロジェクトの減
その他	200	212	11	システム投資の増
ホテル事業	98	78	△ 19	東京ディズニーシー大規模開発プロジェクトの減
その他の事業	21	22	1	
(消去又は全社)	△ 0	△ 0	0	
合計	1,200	1,032	△ 167	

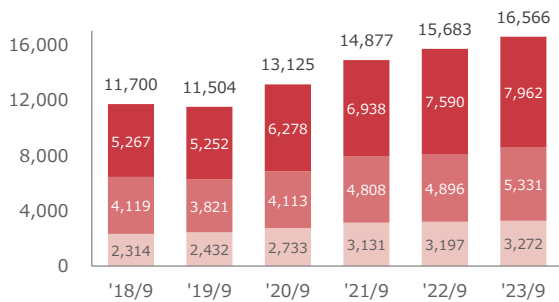
償却費 (有形固定資産・無形固定資産・長期前払費用)	2024/3 期初予想	2024/3 修正予想	増減	主な増減要因
テーマパーク事業	394	391	△ 2	
東京ディズニーランド	164	163	△ 1	
東京ディズニーシー	129	129	0	
その他	100	98	△ 1	
ホテル事業	44	44	0	
その他の事業	33	33	△ 0	
(消去又は全社)	-	△ 0	△ 0	
合計	472	469	△ 2	

## 入園者数



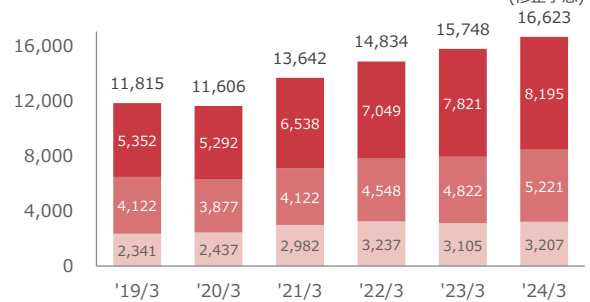
## ゲスト1人当たり売上高 (第2四半期累計期間)

(円) ■ チケット収入/アトラクション・ショー収入 ■ 商品販売収入 ■ 飲食販売収入



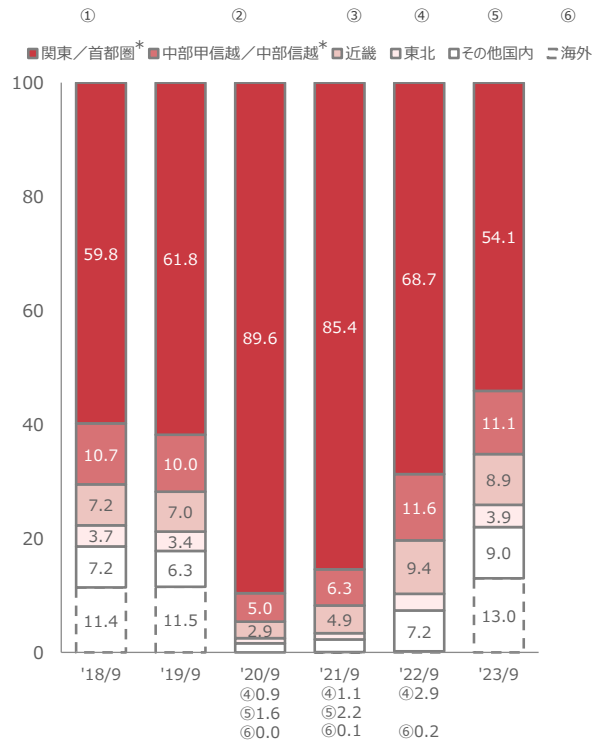
## ゲスト1人当たり売上高 (通期)

(円) ■ チケット収入/アトラクション・ショー収入 ■ 商品販売収入 ■ 飲食販売収入 (修正予想)

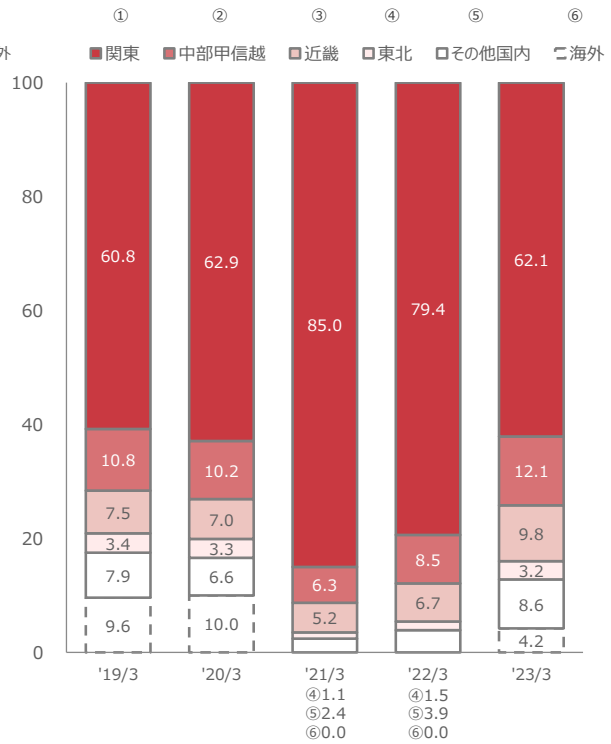


※2022年3月期以前の実績はチケット収入、2023年3月期の実績はアトラクション・ショー収入です。

### 地域別来園者比率 (第2四半期累計期間)



### 地域別来園者比率 (参考：2023年3月期までの通期実績)



\*'23/9より集計方法を変更しました。



## 連結貸借対照表（実績/前期末）

連結貸借対照表	(億円)		
	前期末	当四半期末	増減
<b>A.資産の部</b>			
流動資産	3,489	3,927	438
固定資産	8,574	8,723	148
資産合計	12,064	12,651	587
<b>B.負債の部</b>			
流動負債	1,612	1,903	291
固定負債	2,154	1,901	△ 253
負債合計	3,767	3,805	38
<b>C.純資産の部</b>			
株主資本	8,150	8,629	479
その他の包括利益累計額	146	215	69
純資産合計	8,296	8,845	548
負債純資産合計	12,064	12,651	587

<b>【A. 資産の部 587億円の増（4.9%増）】</b>	
<b>I. 流動資産 438億円の増</b>	
(1) 有価証券の増	199 億円
(2) 現金及び預金の増	104 億円
(3) 受取手形、売掛金及び契約資産の増	82 億円
<b>II. 固定資産 148億円の増</b>	
(1) 設備投資による増	277 億円
(2) 投資有価証券の増	102 億円
(3) 減価償却による減	△ 231 億円
<b>【B. 負債の部 38億円の増（1.0%増）】</b>	
<b>I. 流動負債 291億円の増</b>	
(1) 1年内償還予定の社債の増	300 億円
(2) 支払手形及び買掛金の減	△ 38 億円
<b>II. 固定負債 253億円の減</b>	
(1) 社債の減	△ 300 億円
(2) 繰延税金負債の増	59 億円
<b>【C. 純資産の部 548億円の増（6.6%増）】</b>	
・親会社株主に帰属する四半期純利益による増	545 億円
・配当による減	△ 72 億円





株式会社オリエンタルランド 経理部IRグループ

047-305-2034 [www.olc.co.jp](http://www.olc.co.jp)

---

注意事項：

本資料は、OLCグループの業績及び今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。

本資料にて開示されているデータは、発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくものです。当社グループの事業は、顧客嗜好・社会情勢・経済情勢等の影響を受けやすい特性を持っているため、本資料で述べられている予測や見直しには、不確実性が含まれていることをご承知おきください。

テーマパーク入園者数については単位未満を四捨五入、財務データについては単位未満を切り捨てて記載しています。  
本資料の転載はご遠慮ください。